INFORMATION

●「RAWLIFE@新木場空き地」10/21(土)12：00〜22：00（音止め）23：00〜5：00（宿泊）10/22(日)5：00〜21：00。出演：(21日) PEPE CALIFORNIA、LITTLE TEMPO、クボタタケシ、LASVEGAS、瀬見憲司、ギターウルフ、ABRAHAM CROSS、ECD、SFP、U.G.MAN、NOBU㌍。(22日) 2MUCH CREW、TEXACO LEATHER MAN、SHIRO THE GOODMAN、REBEL FAMILIA、秘密博士、MOODMAN、高橋透、Jaypee㌍。rawlife.jpまで

●スウェーデンを代表する女性アーティスト3組によるスペシャル・アコースティックナイト「SWEDEN ACOUSTIC」の開催が決定しました。出演は、HELLOSAFERIDE、現在はパリ在住のWENDYMcNEILL、'05年KEREN ANNのUKツアー、並びにパリのライヴのサポートを務めた事で話題のノルウェー出身のANEBRUNの3組です。10/5木原宿アストロホール問クリエイティブマン☎03(5466)0777まで。オーガニックな秋の夜を。

●昨年のフジロックで奇跡の来日を果たした酔いどれシンガー、シェイン率いるザ・ポーグスが再び帰ってきます。10/2月難波HATCH問SMASHWEST☎06(6535)5569、3水DIAMOND HALL問JAIL HOUSE☎052(936)6041、5木、6金SHIBUYA-AX問SMASH☎03(3444)6751

●(青)ですが、カーシヴとヴェルヴェット・ティーンに感動！(9/15@渋谷クアトロ) 前者は新作同様ホーン隊との絡みを生で展開、7人編成の分厚い音で観客をブリブリ圧倒。かたやV・ティーンは3人での演奏にラップトップの音源も駆使する奔放なプレイスタイルで、複雑な構成の曲もビシビシ叩きだしてました。どちらもハッピー。そして両方ともドラマーが素晴らしひ。最高の夜でしたわ。

●先月末にニュー・シングルを一挙に5枚リリースしたアンダーワールドが、ジャーマン・テクノ・シーンの大ボス、スヴェン・ヴァスのクラブ「COCOON」に積極的に出演している。ここのところ両者は密接に交流しており、現在レコーディング中のアンダーワールドのニュー・アルバムにスヴェンが参加するというウワサも出ている。

●日本初の中近東音楽特集音楽祭「ラマダンの夜」の実急文化村公演日程が決定。10/2㈰ファイズ・アリ・ファイズ（パキスタン）&カイハン・カルホール（イラン）、3㈪デュオウード（チュニジア、アルジェリア）&グナワ・ディフュージョン（モロッコ、フランス）、4㈫メルジャン・デデ（トルコ、スーフィー・エレクトロ必見！）。地方公演&詳細はカンパセーション☎03(5280)9996

●エレクトロニック音楽とマルチメディア・アートの祭典「sonar sound tokyo」。今年は10/7㈮〜9㈰までの3日間、恵比寿ガーデンプレイスをフルに活用して開催される。出演はデ・ラ・ソウル、DJヘル、アフラ&BBB、レイ・ハラカミ、シロウ・ザ・グッドマン、セニョール・ココナッツ、そして高橋幸宏やヤン富田＋ドゥービーズ&ナイーヴスまで、40組以上が出演。詳しくはwww.sonarsound.jp

●テレビブロスではこの秋から、青山ブックセンター六本木店にて本誌執筆者によるトークショーが不定期連続開催決定。第1弾は10/11㈫19：30より、「PLANET INDIA インド・エキゾ音楽紀行」を刊行したばかりのサラーム海上氏が登場。インドや世界各国で自ら撮影した秘蔵のビデオをたっぷり使い、エキゾ音楽の極意を紹介する予定。本誌のバックナンバー・フェアも同時開催。詳しくは編集部☎03(3542)7578まで。

「PLANET INDIA インド・エキゾ音楽紀行」
サラーム海上・著
(河出書房新社)

ブロまるカフェ

Bromalu'cafe

取材・文・撮影(一部)／井上由紀子

Guest EDWIN MOSES

スペイン発の小粋なヤングソウル

CDショップでエドウィン・モーゼスのCDを初めて手にした時、よもや現代の作品だなんて夢にも思わなかった。新世代のカーティスの正体はペドロさん(写真右)とパブロさん——英語もしたたかといいスペインの若者2人でありました。

——ライヴ編成は大所帯でしたが、作詞・作曲のクレジット上にもあるエドウィン・モーゼス"とは実際はどなたなんでしょう？

ペドロ「フフ。もう気付いているかもしれないけど、実は僕らが作った架空の人物なんだ。彼は41年にシカゴで生まれた70年代の無名の天才ソウル・シンガーで、ある時、彼のレアなレコードを僕らが発見して、その音楽を語り継いで守っていくために独占的に唄う権利を得たという設定がコンセプト。だから、実際は楽曲もすべて僕らが書いているんだ」

——発想がユニークですが、どこからそういう事を思いついたんですか？

ペドロ「元々曲を作ってパブロのアルセットが来た時に実際だと思ったと同時に、レアグルーヴのようでオリジナルに聴こえなくて変。ならば架空のキャラクターを作ってしまおうという話になった。これまで3枚作品をリリースしているんだけど、アルバム毎に彼の新たな一面を発見して行くという、ちなみに今作は彼がアフリカに自分探しの旅に出て自己破壊しちゃうんだけど、最終的には自分があるべき姿に気付くという希望のあるストーリーなんだ」

パブロ「今作は、彼がイスラム教に改宗してジャマル・ナフサムと言う変名を使ってマヘリア・ジャクソンの曲を唄っていたその時代を辿っていく(笑)。架空のオリジナルレコードのジャケットもそうして作っちゃうんだ(と言いながらコーヒーのシミの付いた、いかにも年代物風のレコードジャケットを見せてくれる)」

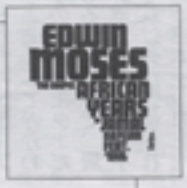
——楽しい妄想ですね。自分の作品なのに、人のもののように作れるのは、

パブロ「いや、エドウィン・モーゼスは本当に存在すると信じているよ(笑)！　絶対に心の中にいるんだってね。勿論音楽もいいんだけど、ストーリーがあって音楽がある。皆にもその両面を楽しんで欲しいんだ」

ペドロ「今、エドウィン・モーゼスが30年前に東京を訪れていたと言うドキュメンタリーを制作している最中。元々さらに架空の情報が面白いんで調査中なんだよね(笑)」

パブロ「だから、当時の日本における彼の情報を知っている人がいるなら、ぜひ僕らに教えてね(笑)」

■Profile　モータウン、ソウルミュージックに傾倒するプロデューサー／アレンジャーであるペドロ・ヴィジルと、90年代SOUVENIRと言うバンドで活躍していたパブロ・エレア（Vo.）を中心に'97年に結成されたソウル・ポップ・プロジェクト。スペインの老舗レーベル・シエスタから、これまでに3枚のアルバムを発表している。



EDWIN MOGES
/THE GOSPEL AFRICAN YEARS
(siesta)　¥2500
タイトルから連想されるように今作も黒人音楽の影響をディープに受けているが、音色がクリアで洗練されていて熟成感は感じられず、寧ろ若く瑞々しい印象。ストリングスアレンジ、コード感、スウィートで官能的なR&Bとどこをとっても現代にモダンなサウンド。

龍ヶ崎あきらの 若者たちの神々

～ヒットチャートを読み解く～

アンジェアラ・アキ/Home
(Epic)¥3059

アンジェラ・アキ 自分とピアノと表現活動

FMでしょっちゅうかかっているこの人。すらりとした長身に端整な顔立ち。一見、SMの女王様のような理知的な雰囲気を兼ね備えたルックスで好印象を持った私だが、PVでの佇まいには戸惑うばかり。トランス状態のように髪を振り乱しながら懸命に歌う姿は、オーバーアクションを通り越して突飛な感じすら醸し出しているのだが、よくよく考えれば曲自体は何の変哲もない普通のポップスなのだ。敢えて言うなら、自分探し時代の仇花と言ったところなのだろうが、「わたし！」と叫べば叫ぶほど、存在が空虚に見えてならないというか。デトックスにハマるOLさんが聴くのだろうか。

りゅうがさき・あきら●漫画好きを売りに政治家を戦う青年太郎。見え透いたその戦術には、溜息しか出ない。

※屋台レコードショップ※ みんみん

文／みんみん須藤

Mr.中村半次郎／平成任侠伝
(徳間ジャパン)¥1200

コッテコテのハードコア任侠系演歌が、どこかキャッチーなネーミング・センスと融合！

一見すると普通の演歌のCDだ。大草原の上に立つ男は、虎の刺繍が施してある作務衣を来て、こちらをじっと見据える。太陽をバックに「平成任侠伝」の文字。ぱっと見、暴力団関係者に見えなくもないが、それは「俠」を言い表す上では褒め言葉。厳しい顔の奥にはどこか温かさがある。ジャケ右部にはその男の名前が刻んである。演歌歌手にふさわしい日本男児の名前の上には…ミ、ミスター!?　なんと「Mr.中村半次郎」が芸名で、名付け親は勝新太郎未亡人、カツシン・ウィドーこと中村玉緒というではないか！　普通の演歌のCDに「Mr.」の文字を付けるだけで独自の宇宙に引き込んでいく中村玉緒、恐るべし！

みんみん・すどう●ブレイクなるかMr.中村半次郎、収録曲では義理と人情と任侠道について歌い上げております。